

# 第5期第2回あま市まちづくり委員会会議録要旨

と き 令和2年10月29日(木)  
午前9時30分～午前11時30分  
ところ 七宝産業会館 2階 大会議室

## 1. 出席者等

委員	14名
事務局	7名
市民活動センター	1名
傍聴人	1名

## 2. 議題

「協働のためのルールブック」作成に向けて

### ○委員長

- ・事務局から資料の補足説明をお願いする。

### ○事務局

(参考資料3に基づき説明)

- ・津島市のルールブックは、身近なイベントを案内していたり協働の活動範囲が図表で示されており、見やすくなっている。
- ・小牧市のルールブックは、理念編において協働の具体的な事例を詳細に表示しており、また協働のステップとして計画・実行・評価・改善を表示している。実務編においては、実際に協働するに当たって必要となる様式も定めている。
- ・岩倉市のルールブックは、各主体の役割や協働推進上の留意事項などが整理されていた。
- ・参考資料3には、先進自治体のルールブックから代表的な記載項目を11項目挙げている。
- ・「1. 背景又は目的」では、総合計画や条例における市民協働の推進が書かれている。
- ・「2. 市民協働とは」において、市民、活動団体、事業者、市が協働していく上で基本となることが明記されている。
- ・「3. 協働のメリット」では、市民活動団体、市、事業者が協働していくためにお互いが取り組む意義が明記されている。
- ・「4. 協働の原則」では、協働を進めていくための一定のルールが記されている。
- ・「5. 各種活動団体等の役割」では、各種団体の役割や協働の範囲が明記されている。
- ・「6. 協働の種類」では、協働を進めていくための一定のルールが記されている。
- ・「7. 協働の具体的な事例」では、実際の事例が挙げられている。
- ・「8. 評価・改善の仕組み」では、PDCAサイクルなどが表されている。
- ・「9. 協働推進に向けての整備」では、協働の流れが記されている。
- ・「10. 今後の課題」では、人材育成や資金助成などの必要性が記されている。
- ・「11. 協働の推進上の留意事項」では、協働を推進するに当たってのポイントが記されている。

### ○委員長

- ・「1. 背景又は目的」などの部分を議論することになると思う。他市のルールブック読んで疑問に思ったことや、ルールブックについて確認したいことなどがあればお聞きしたい。

### ○委員

- ・他市では、ルールブックとは別にフローチャートやチェックシートなども作っているが、なかなか活用されていないという現実がある。それらを踏まえ、あま市としてどう作っていくのかを考えたい。

### ○委員長

- ・協働を知らない団体へ、どのようにして伝えていくか大事である。

### ○委員

- ・協働のためのルールブック作成に向けて、他市は選定委員会を行い、いろいろ集めて作成しているが、このメンバーでできるのか。

### ○事務局

- ・意見を活発に頂けると思うので、十分であると考えている。
- ・外部の意見を取り入れたほうが良いのであれば考えなければいけないが、各委員の経験があれば作成できると考えている。

### ○委員長

- ・外部の人を招く必要があれば、考えていくこともよいかと思う。

### ○事務局

(資料1に基づき説明)

- ・「協働のためのルールブック」の作成に至った経緯は、第1次あま市総合計画において「交流と連携による一体感のあるまち」を定めており、あま市みんなでまちづくりパートナーシップ条例に基づき、市民協働を進めていくことに決定した。
- ・参考資料1は、市民活動センターへ登録してある市民活動団体一覧表である。
- ・参考資料2は、市における協働形態一覧である。

### ○委員長

- ・ここに名前のある団体が実際にどういう活動を行っているのか教えてほしい。

### ○委員

- ・ミルキーねっとは、生涯学習課から委託を受け、幼児期家庭教育事業を0歳から3歳の親子を対象に行っている。講師を招いて、お母さんに子育ての知識を持ってもらう講座や遊びの講座を行っている。
- ・ニコニコ学級では、お母さん同士が友達を作れる環境を作り、子育てが今よりも楽になる講座を行っている。

### ○委員

- ・あま市防災ネットは、市の委託を受けて家具転倒防止金具の取付け事業を実施している。

### ○委員

- ・ママ・ぷらすは、ファミリーサポートセンター事業、親子ふれあい講座事業、産前産後ヘル

ブ事業や防犯体験教室など、市の各課から委託を受けている。

- ・市にとって一番のメリットは、横串がさせるということ。市の担当者は二、三年で異動するが、こちらのメンバーはほとんど変わらない。こちらから提案できることもたくさんあると思う。

#### ○委員

- ・ふれあいカフェは活動場所がなく、公共の場所を借りたいとお願いしたが難しく、2年の活動実績を積んで補助金が交付された。

#### ○委員

- ・後援は、事業を広報で周知できるなど、いろいろメリットがあると思う。
- ・共催なのか後援なのか複雑なので、明確に分かるようになるとよい。

#### ○委員

- ・あま市防災ネットは、宝小学校で防災教室を実施した。各校の小学1年生から6年生まで一貫して実施できるとよい。

#### ○委員

- ・地区で防災訓練を行っているが、市の後援をもらえるのか分からない。
- ・後援は、どのような手続きで進めていけばよいか分からないため教えてほしい。

#### ○事務局

- ・コミュニティの事業として行っているものは、補助金で対応しているため後援を出していない。

#### ○委員長

- ・協働をもっと進めていきたいということが市側のスタンスであると理解いただけると思う。
- ・それに対して、皆さんが協働をされている中での課題などをグループワークで出していただくことで、先ほど示された協働の目的などを、一般論からもっとあま市の現状に合わせたものにしていきたい。
- ・グループワークの説明を事務局から願います。

#### ○事務局

- ・市民活動団体等の現状や課題について、グループワークにより意見交換し、グループごとに発表していただく。

#### ○委員

- ・コロナの影響を受けた活動の現状をあげるのか、普段の活動の中での問題点を挙げるのか。

#### ○事務局

- ・新しい生活様式という観点も含めて提案いただきたい。

#### ○委員長

- ・活動ができないとか、人が集まらないなどの課題を出しても構わないが、協働の視点で考え

ていただきたい。

### ○委員

- ・市民活動団体の現状とあるが、登録をしていない団体はどうすればよいか。

### ○事務局

- ・市民活動団体等の中には、市民活動団体、事業者、市民も含んでいるため、それぞれの立場で意見を頂きたい。

### ○委員長

- ・11時55分をめぐりにグループワークをお願いします。

(グループワーク)

### ○委員長

- ・発表に移らせていただく。
- ・Cグループから発表をお願いします。

### ○Cグループ

- ・高齢化、協働のPR不足、情報不足。
- ・解決策としては、研修会や勉強会を実施。
- ・SNSなどの活用。
- ・少人数でも事業を実施したり、交流の場を作って実施していく形が大事。
- ・安心して活動できる体制。
- ・高齢化が進んでいるが、若い人たちもいるので楽しく実施していくとよい。

### ○Bグループ

- ・地域で参加する場合、どのように参加したらいいか分からない。
- ・コミュニティと自治会の連携はどうしたらいいか。
- ・コミュニティと自治会は、車の両輪であると思っていて、コミュニティの大事な会合には必ず自治会の区長、副区長を呼んで行っている。地域全体のお祭りなどの行事も、自治会と一緒に実施している。
- ・地域コミュニティがまだ少ない。
- ・各地域で、どのような意欲を持った人がいるのか分からない。
- ・後継者が不足している。
- ・いい情報が必要な市民に届いていない。
- ・子育てのお母さんは働いていないので、自分のためにお金を使えない。別の問題ではあるが、いろいろなサービスがあっても自分のためにお金を使えないことが課題。
- ・資金がないため、ボランティアに来てもらっても全部無償が心苦しいので頼めない。
- ・子供たちも地域の一員なので、やがては地域に貢献できるように育てていきたい。

### ○Aグループ

- ・それぞれの団体、所属しているポジションや立場によって、抱えているものが違う。
- ・例えば学校行事をやっていると、市民活動団体がどんなことをやっているか知らないという

意見が多い。

- ・団体としても小中学校との繋がりが欲しいという意見が非常に多い。

#### ○委員長

- ・協働を進めていく上で、今やっていることの周知や情報の共有をどうしていくのかが大事なポイント。
- ・押し付けでなく、こういうふうにとやると上手くいくみたいな感じになると、皆さんが出された課題に即したものになるのではないか。
- ・今回の意見を基に事務局から提案していただき、それを精査する形になればよいと思う。

#### ○事務局

- ・今回の意見をまとめて、また提示する。